

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/02/01

株・原油睨みの相場が続く

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	RBAに政策変更の兆しあるか 予想レンジ: 81.000 ~ 90.000 円	2-3
<a href="#">NZドル/円</a>	↘	外部要因主導の値動きに 予想レンジ: 72.000 ~ 81.500 円	4-5
<a href="#">ランド/円</a>	↘	リスクオンでも積極的な買いなし 予想レンジ: 6.700 ~ 8.000 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

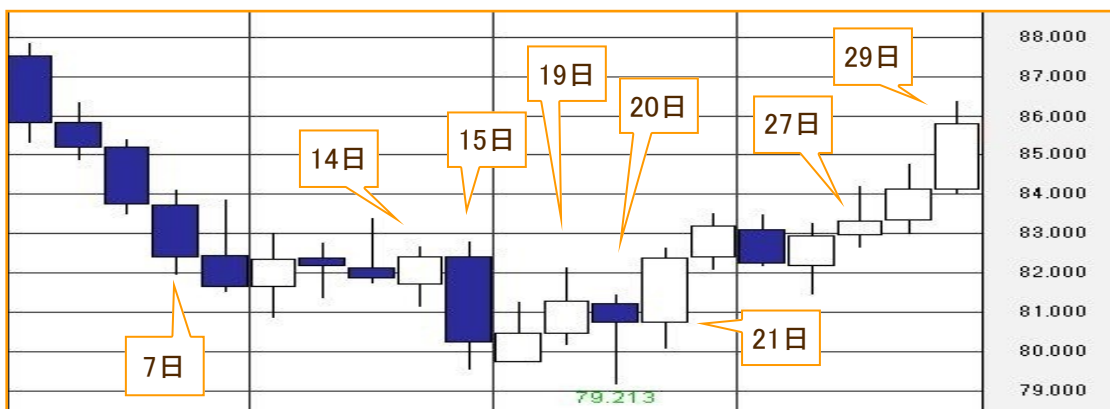
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 1月の推移

AUD/JPY

1月の豪ドル/円相場は79.213~87.837円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.1%の下落(豪ドル安・円高)となった。月間としては小幅安だが、1カ月の動きとしては、「大きく下げて、大きく戻す」というものだった。

年始は中国発のリスクオフの中、円が全面的に上昇する中で豪ドル/円は下落。原油の下落も重石となり、一時は2012年6月15日以来の安値である79.213円まで値を下げた。その後、中国当局のテコ入れなども奏功し、中国株が比較的安定してきた事、NY原油価格も下げが一服してショートカバーが入り、豪ドル/円も下げ幅を縮小。欧州中銀(ECB)理事会後にドラギ総裁が3月の追加緩和の可能性を示唆した事(21日)を受けた対ユーロでの豪ドル高や、日銀の追加緩和(29日)を受けた円安なども豪ドル/円の追い風となった。



## 四本値

OPEN	87.548
HIGH	87.837
LOW	79.213
CLOSE	85.811

7日	豪11月貿易収支は29.06億豪ドルの赤字(予想:29.85億豪ドルの赤字)、豪11月住宅建設許可は前月比-12.7%(同:-3.0%)とマチマチの結果だった。これを受けた豪ドル/円の反応は限定的。その後に発表された人民元基準値が前日から切り下げられた事を受け、中国CSI300指数が7%下落となりサーキットブレーカーが発動(終日取引停止)。これがリスクオフムードに拍車を掛け、豪ドル/円は一時82.00円を割り込んだ。NY原油が32ドル前半半まで下げた事も重石となった。
14日	豪12月雇用統計は失業率が5.8%、雇用者数は0.10万人減(予想:5.9%、1.00万人減)となり、豪ドル/円は81.644円まで値を上げた。その後、日経平均が下げ幅を拡大したため伸び悩んだがNY市場に入ると原油高やNY株高を受けて再び上昇した。
15日	黒田日銀総裁が「現時点では追加緩和をする考えはない」と発言した事を受けて円高が進行。さらにNY原油が30ドルを割り込んで下げが加速する中で豪ドル/円は79.582円まで値を下げた。
19日	中国10-12月期国内総生産(GDP)は前年比+6.8%(市場予想:+6.9%)、12月鉱工業生産は前年比+5.9%(同:+6.0%)、12月小売売上高は前年比+11.1%(同:+11.3%)と軒並み市場予想を下回った。これを受けて豪ドル/円は一時80.191円まで下落・しかし、その後上海株が急激に切り返すと、豪ドル/円も上昇した。ただし、NY市場に入り、国際エネルギー機関(IEA)が月報にて少なくとも2016年末まで供給過剰が続く、原油価格は一段と下落する可能性があるとの見方を示し、原油価格が下落すると、豪ドル/円は上げ幅を縮めた。
20日	アジア株が全面的に下落し、序盤の欧州株も値を下げる中で豪ドル/円は79.213円と2012年6月15日以来の安値を付けた。しかし、一部通信社が本邦政府関係筋の話として「為替市場の動向を注視している」と報じると、下げ幅を圧縮した。
27日	豪10-12月期消費者物価指数は前年比+1.7%と市場予想(+1.6%)を上回った。基調インフレ率は同比+2.0%と市場予想(+2.1%)を下回ったが、豪ドル/円は買い優勢となった。一部通信社がロシア国営石油パイプライン企業トランスネフチ社長の話として「ロシアは石油輸出国機構(OPEC)と産油量について協議するようだ」と伝えた事などを背景にNY原油が上昇すると、豪ドル/円は上昇。しかし、米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明について、株式市場で3月利上げの妨げになるものではないと受け止められ、NYダウ平均が下げ幅を拡大すると、豪ドル/円は失速した。
29日	日銀が当座預金残高の一部に対してマイナス金利を導入すると発表した事を受け、円が全面的に急落。豪ドル/円はNY市場中に一時86.366円まで値を伸ばした。

## AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	18818.58
HIGH	18951.12
LOW	16017.26
CLOSE	17518.30

## NYダウ平均

OPEN	17405.48
HIGH	17405.48
LOW	15450.56
CLOSE	16466.30

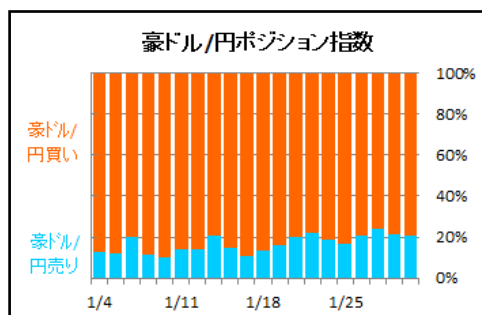
## 上海総合指数

OPEN	3536.588
HIGH	3538.689
LOW	2638.302
CLOSE	2737.600

## 豪10年債利回

OPEN	2.880%
HIGH	2.882%
LOW	2.606%
CLOSE	2.635%

## 1月のポジション動向



## 2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・中国1月財新製造業PMI(1日)
- ・RBAキャッシュレート(2日)
- ・日銀金融政策決定会合議事要旨(12月17-18日分、3日)
- ・豪12月貿易収支(3日)
- ・豪12月小売売上高(5日)
- ・米1月雇用統計(5日)
- ・日12月貿易収支(8日)
- ・中国1月貿易収支(15日)
- ・日10-12月期GDP・一次速報(15日)
- ・RBA議事録(16日)
- ・豪1月雇用統計(18日)
- ・主要国株価、国際商品価格

## 2月の見通し

豪ドル/円は1月前半に下落し、中盤に下げ止まり、中国株・原油の戻りを跳めて下げ幅を小幅に縮小。さらに日銀が当座預金残高の一部にマイナス金利を導入すると、大幅に円安が進み、下げ幅を大きく縮める結果となった。日銀のマイナス金利導入による円安は効果に対して疑問視する声も大きく、これ以上、大幅に円安が進む要因にはなりにくい。豪ドル/円相場を左右するのは、引き続き株価と原油価格と見る。

株価に関しては、1月前半のドルを大きく押し下げた中国発のリスクオフムードは一服感が出た事で、一時のリスクを恐惶的に回避するムードは落ち着いた。このまま中国の状況が落ち着きを見せ、当局管理下でも上海株が堅調に推移し始めれば、他の主要国の株価にもプラスに作用し、豪ドル/円を押し上げて行く可能性はある。ただ、「中国の状況が根本的に改善した」という見方をしている向きがない以上、上海株は上昇したとしても懐疑的なムードの中でゆっくりなペースとなりそうだ。つまり、豪ドル/円を押し上げるにしても、ゆっくりしたものになるだろう。一方、1月前半の豪ドル/円を押し下げたもう一つの要因である原油安に関しては、ショートカバーが入っているとはいえ、予断を許さない。産油国同士の生産量調整がうまく行けば、需給の緩みの解消観測に繋がり、原油価格に一段の戻りがみられ、豪ドルには買い要因になるだろう。しかし、生産国の調整は困難を極めており、原油価格がすぐに上昇トレンド入りする可能性は低い。原油価格が豪ドルの追い風になる事を期待するのは厳しそう。むしろ、石油輸出国機構(OPEC)とロシアの減産交渉が決裂するなど、マイナス要因を受けた原油急落→豪ドル急落、というシナリオを警戒すべきと見る。なお、豪中銀(RBA)は2日に政策金利を発表する。今月会合でも、RBAは政策金利を現行の2.00%に据え置く公算が大きい。注目されるのは、声明文において、中国経済に対する懸念や商品安の悪影響について、一段と懸念を強めるかどうかだ。懸念強化が見られれば、豪ドル/円はRBA利下げの思惑なども絡めつつ下押し圧力が掛かる。(石川)

(予想レンジ: 81.000~90.000)

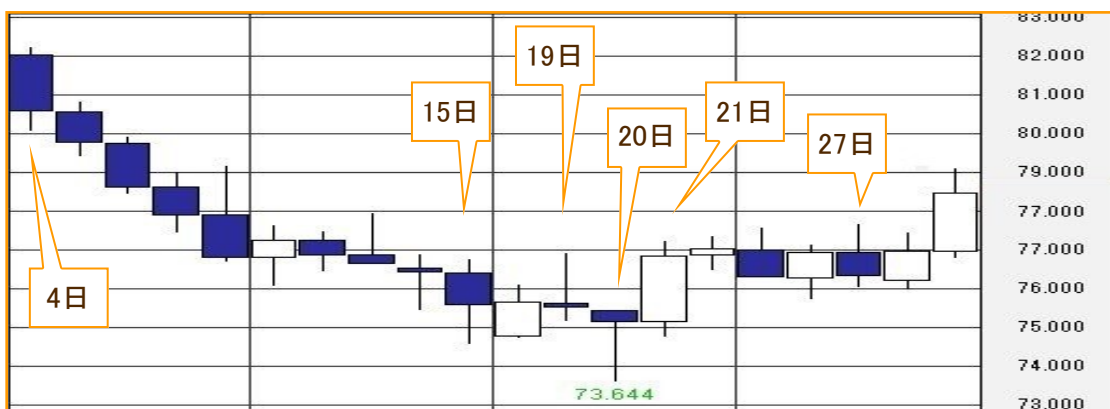
巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZドル/円 1月の推移

NZD/JPY

1月のNZドル/円相場は73.644～82.244円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.5%の下落(NZドル安・円高)となった。

1月前半は中国発の人民元安・株安や、原油安を背景とする世界的なリスクオフムードの中で、大きくNZドル/円は下落。73.644円の安値を付けた後、月初のリスクオフムードに一服感がみられる中でNZドル/円は小戻した。しかし、19日発表のNZ10-12月消費者物価指数が市場予想を下回る結果で、当面は金融政策を据え置くと姿勢を示していたNZ中銀(RBNZ)がまた利下げ方向に舵を切るのでは、との思惑の中、豪ドル/円ほど強い戻りは見られない状態。27日のRBNZ声明で年内の利下げの可能性が示唆されると、さらに他のクロス円に比べて戻りを抑制された。ただ、それでも29日に日銀が当座預金残高の一部に対してマイナス金利適用を発表すると、一時79円台まで値を戻した。



## 四本値

OPEN	82.049
HIGH	82.244
LOW	73.644
CLOSE	78.484

4日	中国人民幣元が大きく切り下げられた上、中国12月財新・製造業PMIが48.2と市場予想(48.9)を下回った事などをを受けて上海株が急落するとアジア株全般的に急落。リスクオフモードが広がる中でNZドル/円は下落した。なお、この日に行われたNZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数は前回比-1.6%となったが、NZドルの反応は限られた。
15日	黒田日銀総裁が「現時点では追加緩和をやる考えはない」と発言した事を受けて円高が進行。さらにNY原油が30ドルを割り込んで下げが加速する中でNZドル/円は一時75.00円を割り込んだ。
19日	中国の10-12月期国内総生産(GDP)は前年比6.8%(予想:6.9%)、12月鉱工業生産は前年比+5.9(同:+6.0%)、12月小売売上高は前年比+11.1(同:+11.3%)と、軒並み弱い結果になった事から、NZドルは一時下げたが、その後上海株が切り返した事で上昇。しかし、前週末の対イラン経済制裁解除に加え、国際エネルギー機関(IEA)が月報において、少なくとも2016年末まで供給過剰が続く、原油価格は一段と下落する可能性があるとの見方を示した事から、原油の需給が一段と緩むとの懸念が広がり、NY原油が値を下げるとリスクオフムードが広がり、円高が進行。NZドル/円は上げ幅を縮小した。なお、フォンテラのGDT物価指数は前回比-1.4%だったが、NZドルに特段の反応は見られなかった。
20日	前日NY市場終盤に発表されたNZ10-12月期消費者物価指数が前年比+0.1%と予想(+0.3%)を下回った事で、NZドル/円は早朝から下落。さらに、アジア株が全面安となり、序盤の欧州株も下げる中で73.644円と2015年8月24日以来の安値を付けた。しかし、一部通信社が本邦政府関係筋の話として「為替市場の動向を注視している」と報じると、下げ幅を圧縮した。
21日	欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が理事会後の会見で「3月の理事会で政策を再評価する」「今年に入って下振れリスクが高まった」などと発言。追加緩和を示唆した事を受けてユーロ/NZドルでユーロ安・NZドル高が進行すると、NZドル/円も連れ高。さらに、米エネルギー情報局(EIA)が週間在庫統計発表後にNY原油が一時30ドル台を回復し、NYダウ平均が一時16000ドルを回復した事も追い風となり、NZドル/円は一時77.20円台に乗せた。
27日	NY原油が堅調に推移する中でクロス円は全般的に円安が進行。しかし、米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明について、株式市場で3月利上げの妨げになるものではないと受け止められ、NYダウ平均が下げ幅を拡大すると、NZドル/円は軟化。その後、RBNZが政策金利の据え置きを発表しつつも、声明において「為替レートのさらなる下落は輸出価格の低下が続く中では適切」「金融政策は引き続き緩和的だろう」「今後1年で若干の追加緩和が必要となる可能性がある」「世界経済の強さに対する不確実性は、中国や他の新興国市場の成長減速懸念で増した」「インフレ率は2016年に上昇すると見込まれるが、目標レンジ到達には以前の予想よりも長い時間が必要となろう」などと、追加緩和の可能性に言及した事でNZドルは下値を切り下げた。

## NZD/JPY

## 日経平均

OPEN	18818.58
HIGH	18951.12
LOW	16017.26
CLOSE	17518.30

## NYダウ平均

OPEN	17405.48
HIGH	17405.48
LOW	15450.56
CLOSE	16466.30

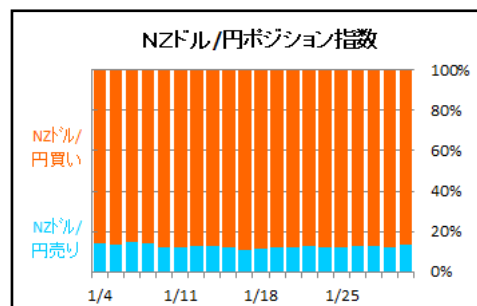
## 上海総合指数

OPEN	3536.588
HIGH	3538.689
LOW	2638.302
CLOSE	2737.600

## NZ10年債利回

OPEN	3.575%
HIGH	3.579%
LOW	3.187%
CLOSE	3.223%

## 1月のポジション動向



## 2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・中国1月財新製造業PMI(1日)
- ・NZフォンテラ入札(2日、16日)
- ・NZ10-12月期失業率(2日)
- ・日銀金融政策決定会合議事要旨(12月17-18日分、3日)
- ・米1月雇用統計(5日)
- ・日12月貿易収支(8日)
- ・中国1月貿易収支(15日)
- ・NZ10-12月期小売売上高指数(15日)
- ・日10-12月期GDP・一次速報(15日)
- ・NZ10-12月期生産者物価指数(17日)
- ・NZ1月貿易収支(25日)
- ・主要国株価、国際商品価格

## 2月の見通し

2月のニュージーランドではRBNZの理事会の予定はなく、また日本でも日銀金融政策決定会合の予定はない。NZドル/円は引き続き株や原油の動向を睨みつつの展開となりそうだ。ただし、NZドルに関しては、中国(NZの最大貿易相手国)の景気減速がNZに波及するという懸念、物価の下振れなどを背景に、利下げ観測が強まっている。そのため、主要国株価や原油価格が1月下旬以降のように引き続き戻り歩調を辿ったとしても、他のクロス円に比べて上値の重い状態が継続する公算が大きいと見る。一方、株や原油が再度値を崩し、リスクオフムードが強まった場合、利下げの早期化観測などを絡めて、他のクロス円よりも大幅に売り込まれる可能性があるだろう。また、それに関連し、3月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げが本当に行われるかどうか、また3月の欧州中銀(ECB)理事会で追加緩和が本当に行われるかどうかという思惑も、株価などに関わってくる可能性があるため、関連報道には要注意だ。

なお、NZドルが下げた場合に1月安値73.644円を割り込んでしまうと、昨年8月に付けた安値72.100円辺りまで下げ余地は拡大する。月初の水準からすればかなり距離があるように感じられるが、このところ1日の値幅が大きくなってきている事も考慮すると、あり得る範囲ではある。くれぐれもリスクオン・オフという市場のムードの転換には注意したい。(石川)

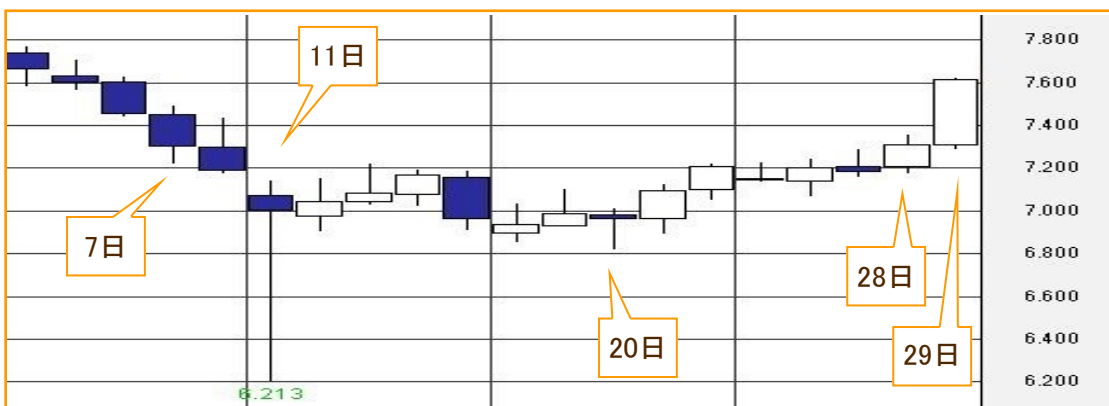
(予想レンジ: 72.000~81.500円)

ZAR/JPY

## ランド/円 1月の推移

1月のランド/円相場は6.213~7.768円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.0%の下落(ランド安・円高)の推移となった。

1月のランド/円は他のクロス円と同様、前半は中国発の世界的な株安、そして原油安が引き起こしたリスクオフムードの中で下落した。特に11日に関しては、週初早朝のオセアニア市場で、市場参加者の少ない中で入ったランド売りによって6.213円まで急落する、という場面が見られた。1月後半に入ると、リスクオフムードが緩和する中でジワジワと値を戻すが、高インフレにも関わらず経済が非常に弱い中で積極的にランドが買われる事はなく、豪ドル/円や他のクロス円に比べると戻りは鈍かった。ただ、日銀の当座預金残高の一部に対するマイナス金利導入を受けた円安の影響もあり、下げ幅を縮めて終了した。



## 四本値

OPEN	7.743
HIGH	7.768
LOW	6.213
CLOSE	7.617

7日	人民元基準値が前日から切り下げられた事を受け、中国CSI300指数が7%下落となりサーキットブレーカーが発動(終日取引停止)。これによって市場にはリスクオフムードが広がり、南アランド/円は下落した。NY原油が32ドル台前半まで下げた事もリスク回避の動きに拍車を掛けた。
11日	前週末にNYダウ平均が下げて引けた事を嫌し、週明け早朝の市場参加者が少ない時間に南アランド/円は一時6.213円まで急落。ただし、すぐに下げ幅を圧縮した。
20日	南ア12月消費者物価指数は前年比+5.2%(予想:+5.2%)、コア指数も同比+5.2%(同:5.2%)と、市場予想通りの結果となった。ただし南アランドはほぼ反応せず。その後に発表された同国11月小売売上高は前月比+3.9%(実質値、前年比)と市場予想(+2.8%)を大きく上回ったが、これに対する反応も限定的だった。
28日	南ア中銀(SARB)は市場予想通り政策金利を0.50%引き上げ、6.75%とした。市場予想通りの結果にランド/円の反応は限定的となった。ただ、その後にロシアのエネルギー相が「石油輸出国機構(OPEC)会合で5%減産を協議する可能性がある」「サウジアラビアが先に5%減産を提案していた」などの見解を示し、NY原油が一時34ドル台後半まで急騰すると、リスクオンムードが強まり、円は下落。ランド/円も上昇した。
29日	日銀が当座預金残高の一部に対してマイナス金利を導入する事を発表すると、円安が急激に進行。ランド/円は7.60円台を回復した。なお、南ア12月貿易収支は82億ランドの黒字と市場予想(49億ランドの黒字)よりも強い結果となったが、ランド/円はほぼ反応しなかった。

## 日経平均

OPEN	18818.58
HIGH	18951.12
LOW	16017.26
CLOSE	17518.30

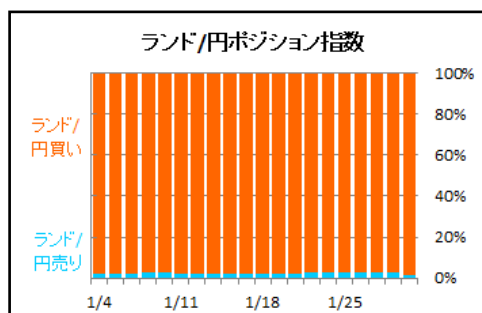
## NYダウ平均

OPEN	17405.48
HIGH	17405.48
LOW	15450.56
CLOSE	16466.30

## N Y 金

OPEN	1061.50
HIGH	1128.70
LOW	1061.00
CLOSE	1116.40

## 1月のポジション動向



## 2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・中国1月財新製造業PMI(1日)
- ・日銀金融政策決定会合議事要旨(12月17-18日分、3日)
- ・米1月雇用統計(5日)
- ・日12月貿易収支(8日)
- ・中国1月貿易収支(15日)
- ・日10-12月期GDP・一次速報(15日)
- ・南ア1月消費者物価指数(20日)
- ・南ア12月小売売上高(20日)
- ・南ア1月貿易収支(29日)
- ・主要国株価、国際商品価格

## 2月の見通し

2月の南アフリカでは、南ア中銀(SARB)の理事会など目立ったイベントの予定はない。また日銀に関しても同様に理事会がなく、ランド/円は1月とほぼ同様に、主要国株価や原油価格などを眺めながらの取引となりそうだ。1月下旬からの株・原油の戻りが継続すれば、全般的な円売りが続き、ランド/円には上昇圧力となる可能性がある。しかし、南アフリカは経済が非常に弱く、高インフレを受けてSARBが政策金利を引き上げ傾向(本来なら通貨高圧力)にあるにも関わらず、利上げの悪い面(経済には重石)が注目されて、ランドは投資対象から外される傾向にある。株や原油の戻り歩調が続いたとしても、ランド/円は他のクロス円に比べて戻りがかなり弱い可能性が高い。一方で、リスクオフムードが再度強まった場合は、ランドはリスク回避の円買いに加え、「世界経済の不安定化が南アフリカ経済の一段の重石となる不安」を背景とするランド売りが重なり、下げが比較的大きなものになる可能性がある。1月11日のような、相場が薄い時間の急落が再度起こる可能性も否定できない。離脱が困難なほどの不測急落の可能性も想定しつつ、慎重に取引をしたいところだ。(石川)

(予想レンジ: 6.700~8.000円)